

みなさんこんにちは。今回のリーブスはふたば学級に通っている子供たちが  
どんな子達か、少しご紹介したいと思います。

## 得意もあれば不得意もある！！



みんな自分がどんなふうに困っているのか、生まれたときからそうだから、何が違うのか分からないのじゃ。周りの子はできるのに自分はできないと自信をなくしてしまう子もいる。周りの大人が気づいて支えてあげることが大切なじゃ。



## 良いところを伸ばし苦手を支える

クラスに勉強が得意、体育が得意、おしゃべりが得意な子がいるのと同じように、勉強が苦手、体育が苦手、おしゃべりが苦手な子もいますよね。いろんな子供たちが一緒に生活しているのが学校です。でも、クラスのみみんなと同じように頑張っても、「集団行動」や「勉強」「友達づきあい」などがどうしてもうまくできなくて、とても困っている子がいます。どんなことでもクラスで少数派だと肩身が狭くなり、楽しく過ごすことが難しいですよ。努力してもみんなに合わせることができない特性を持っている子は毎日苦勞の連続です。そのまま生活していると、苦手なことが負担になってクラスでトラブルになったり、学校が嫌いになってしまうこともあります。でも、誰にも得意不得意があるのはあたりまえです。うまくいかないところを支えてあげたり、苦手な部分を減らしてあげると、その子の得意分野がパッと花開いてみんなの役に立つことだってできるんです。ふたば学級では、子どもが何に困っているのかを注意深く見守りながら、担任の先生とふたばの先生が連携して各々に合わせた支援を行っています。苦手なことがあっても、いいところを伸ばしてあげることのできる子ども毎日楽しく学校に通えたらいいですね。

## 編集後記

私事ですが、数年前、何十年ぶりかで私自身の小学校2年生の時の担任の先生に再会しました。その先生がおっしゃるには、「今だから話すけど、君のクラスは1年生の時に学級崩壊していて、学校中が頭を抱えていたんだよ。個性的な子が多くて、まとまらなかったんだ。春休み中に担任の先生が辞めてしまって、急遽僕が就職したんだ。」そんな事が？当時の私は気づいていませんでした。「覚えてるかな、すぐ泣いちゃうAちゃん。お父さんがずっと病気でね。1年生の夏休みに亡くなって不安定な時期だったんだ。B君はずいぶん暴れてたろう。クラスの子達、みんな1度は泣かされたかな。C君は席にすわってるとうずうずして、じっとしてられないタイプ。前後左右の子達ともめてばかりだった。クラス全体がふわふわしてて、いつも誰かが大きな声をだしてたね。」驚きました。Aちゃんにそんなことが。B君C君は今ならふたばに行ってたかな。などと思いながら多くはない私の情報から「B君は家業をついで、C君は福祉系の大学に進みましたよ。」と言うと、先生は嬉しそうになさりました。C君は今も年賀状をくれるんだそうです。あのC君が年賀状！これもびっくり。「僕、いつも思うんだけど。僕たち大人が子ども達に出来ることって少ないよ。逆に、子どもの自立の邪魔にならないように、大人の方から離れなきゃいけない。いずれはね。子どもは一人で失敗しながら案外たくましく大人になっていく。先生には卒業式や定年があるけど、親にはそれがないから難しいね」昔も今も子ども達は個性豊かで、自身の問題だけでなく家庭に事情のある子、不安定な中で頑張っている子等、とりまく状況も十人十色。子どもの個性や環境を問題だと思うかどうか。指導やフォローが必要かどうか。そこに万人共通の正解はないのだなぁと思うのです。ふたばに通うことも選択肢の1つにすぎません。どんな道筋をたどっても、まわりの大人達はそれぞれができることをしながら子ども達の健やかな成長を願って、明るいほうへ伸びていくと信じていくのだと思います。時にゆるやかに、時にがっつりつながりながら。